



祝祭日には国旗を掲げましょう。

大阪天満宮社報

天満さんぽん

令和三年
新春号外

年首御慶



謹んで新年を寿ぎ、御皇室の繁栄と、氏子の皆様の弥栄を御祈念申し上げます。

昨年令和二年は世界中で新型コロナウイルスの流行によって大変な年になりました。私たちの暮らしも一変し、海外ではいわゆるロックダウンと称する都市の閉鎖が強制され、我が国でも飲食店等の営業時間が制限され、企業での働き方もリモートワークやインターネットでの会議が増え、学校ではオンライン授業が行われ、日常生活に於いて様々な影響を及ぼしました。

あらためてそれまでの普通だと思っていた日常生活がどれほど有り難かったのかを思い知らされた次第です。会いたい人に会えないことや、行きたい所に行けない事の辛さを感じた方は多かったのではないのでしょうか。

これまでの人類の歴史は災害や疫病との戦いでもあって、大地震、津波などの災害や天然痘やコレラなどの疫病に多くの命が失われました。そしてその度に人々は神様に祈りを捧げ終息を願いました。

神社神道は大自然の恵みに感謝し祖先を敬い崇め日々誠の心を持って生活をする事を旨としています。

どのような状況の中でも私たちは日々生かされている今を精一杯生きなければなりません。コロナ禍にあっても日本人としての節度をわきまえ、相手を思いやり慈しみの心を持つて精一杯一生懸命に過ごして行く事で必ず道は開けると信じています。

本年は辛丑（かのとうし）年で、丑年にお生まれになった菅公と大変ゆかりの深い年に当たります。天神様が常に祈られた至誠の心を忘れる事なく過ごして参りたいと思います。

大阪天満宮

宮司 寺井 種治

初詣の新型コロナウイルス感染防止対策について

- ① 正月三ヶ日を避け二月節分ごろまでの分散参拝をお願いします。
- ② マスクを着用し、境内各所の消毒液で手洗いをお願いします。
- ③ 体調のすぐれない方、三七・五度以上の熱のある方は、ご参拝をお控えください。
- ④ ご祈祷等で本殿他の施設にお入りの方は検温させて頂きます。
- ⑤ 境内の過密を避けるため、露店は出さずに隔離空間を確保しますが、それでも、境内への入場を制限させていただく場合があります。
- ⑥ SNSで境内の混雑状況を随時発信します。

今年の干支

辛丑（かのと・うし）

しています。

よって、「辛

丑」の今年は、

内から発現して

くるエネルギー

を集約して、新

たな結成や組織

化を目指す年ということになります。

（安岡正篤大人の著書から）

令和三年元旦

大阪天満宮

昨年は「庚子（かのえ・ね）」の年でした。これまでの継続を保ちつつも、未来を見通し、新たな循環が始まる年でした。皆さまにも、何か新しい循環が始まりましたでしょうか。

さて、今年は「辛丑（かのと・うし）」の年です。

「辛」は、これまで地下深く潜在していたエネルギーが、様々な矛盾・

抑圧を排除して地上に発現することを意味しています。「丑」は、右手を

挙げた形を表し、事を始めんとするとする意味を持ちます。また、「紐」と同義ですから、これまでの種々の動きを結び合わせ、新たな組織・器官を形作ることも表



表紙解説 天神画像

大阪天満宮所蔵 絹本着色

縦二一六・三cm 横五四・九cm

江戸時代 土佐光宇筆 一幅

松浦 清（大阪工業大学教授）

平安時代に貴族の正装とされた束帯姿の天神像です。

光格天皇の遺志により天保十四年（一八四三）三月二十日に大阪天満宮へ高辻以長を介して寄進されたことを記す寄進状が残されています。

それによれば、後水尾天皇（在位一六一―一二九）が奉納された神影が天保八年（一八三七）二月の大塩平八郎の乱で焼失したため、光格天皇が土佐光宇に神影を描かせ、亡くなる前日の天保十一年（一八四〇）十一月十八日に、大阪天満宮に改めて寄附されたことがわかります。寄進の詳細については、本誌第55号で盛田帝子氏が紹介されています。光格天皇と大阪天満宮との関係についても、本誌第76号で同氏が詳述されていますので、是非、ご覧ください。

天神は黒の袍を着用し、笏を手に上置に坐す姿で描かれています。笏を持つ手に力を込めるのは、毗を吊

り上げて唇を噛む険しい表情とも関連する怒り天神の系譜を引く表現です。頭髮や髭鬚に白色が混じるのは、讒言への憤激から一夜にして白髪になったと伝えら

れる表現でしょう。通常佩用する太刀を描かず、太刀を吊る平緒もありません。下襲の裾は長さを強調するように、背後ではなく体側に描かれています。

よく見ると、黒袍は臣下通用の轡唐草文様ですが、下襲は鶴？の丸、表袴は翼に霞の文様とし、纏細縁の上置に円座を敷くなど、有職故実を踏まえて、際立つて高位にある像主への配慮が示されています。この表現は伝統と格式を重んじる絵師が豊富な粉本（下絵）知識をもとに描いたことの現れでしょう。袍の輪郭線や衣文線に見られる描線は、筆勢を活かす伝統的な掘塗を意識した謹厳な線で、上質な顔料を用いて量置いた繊細な賦彩や、天皇の下令により描かれた制作背景も合わせて、本図は幕末土佐派の水準を示す代表作といえるでしょう。画家の署名がないことも神影の格式を伝えています

令和三年 丑年の牛めぐり

創業者・上島歳末氏の郷里・但馬にちなんで但

丑（＝牛）といえば、菅原道真公（天神様）の神使として知られています。その由来については、菅公が承和十二年（八四五）の丑年のお生まれであつたことに加えて、薨去の際に、輜車（葬送の牛車）を曳く牛が臥せて動かなくなつたため、その地に御墓所を定めたという伝承によります。

そのため全国の天満宮・天神社には臥せた牛の像「臥牛像」が奉納されているのです。当宮にも、数々の牛像が奉納されてきましたが、経年劣化による欠損や、戦時中の供出により失われたものも多く、現在は個性豊かな五体の「臥牛像」が据え置かれています。

そのうち四体については自由に御覧いただけますので（一体は参集殿の庭にあります）、今年の丑年にちなんで臥牛像を巡られては如何でしょうか。

①スエヒロ牛 ビフテキの「スエヒロ」が昭和十四年（一九三九）の創業三十周年と、翌年の紀元二千六百年を記念して奉納されたものです。この黒御影石製の等身大臥牛像は、

馬牛を模し、台座の下には一万頭の鼻骨を納めて牛を供養しています。毎年創業日である三月十日の「牛祭」には、創業者に連なる「スエヒロ会」の皆様が参拝されています。

②天保牛 天保十一年（一八四〇）十一月に数十名の皆様により寄進されたのですが、詳しい事情は解りません。寄進者は、地元の天神筋町から南方の上大和橋、道頓堀、九郎衛門町、天王寺など幅広い地域にまたがっています。二〇〇年近くも雨風にさらされ欠損していますので、今は小屋の中に臥せてらっしゃいます。

③（昆布商）牛 白米稻荷社の裏側に据え置かれていますので、ご存じない方も多いようです。「四区 昆布商」と彫られた台座に横たわつてらっしゃいますが、これは当初からの台座ではなさそうです。その年季の入った様子からは、②の天保牛よりも古い奉納のようにも思えます。

④撫牛 昭和三十年代に布施（東大阪市）の坪庭元次郎氏が、②の天保牛を模した青銅製の「撫牛」として奉納されたものです。撫牛とは、

①スエヒロ牛



②天保牛



③（昆布商）牛



④撫牛



参拝者が自身の病傷などの不具合なところを撫でたと、撫牛の同じ箇所を撫でると、その不具合を取り込んで治してくれるという古い風習によるものです。特に頭上がピカッているのは、学問の神様のお使いらしいですね。



本年もよろしく
お願い申し上げます

● 年間 神事行事 (主な予定) ●

- | | |
|-----------|----------------|
| 一月九、十、十一日 | えびす祭 |
| 十五日 | とんど神事 |
| 二十四、二十五日 | 初天神 梅花祭 |
| 二月十一、二十八日 | てんま天神梅まつり |
| 二日 | 節分祭 厄除大祭 |
| 八日 | 吉備社 御針祭 |
| 三月二十五日 | 例祭 (菜花祭) |
| | 筆塚祭 |
| 四月一、二日 | 白米稻荷祭 |
| 二十五日 | 鎮花祭 |
| 五月十六日 | 春季祖霊祭 |
| 七月七日 | 人形祭 |
| 二十四日 | 天神祭宵宮祭・鉾流神事 |
| 二十五日 | 七夕祭 |
| | 天神祭本宮祭・陸渡御・船渡御 |
| 九月二十一日 | 秋思祭・秋季祖霊祭 |
| 十月二十五日 | 秋大祭・流鏝馬神事 |
| 十一月 | 七五三詣 |
| 十二月二十五日 | 終い天神・絵馬焼納 |
| 三十一日 | 大祓式・除夜祭 |

(注) 右の予定は、時節柄、やむを得ず変更することもあります。

◆ 奉 納 ◆ (九月二十三日)

「十二社前 鳥居」 巻基
NANEI 株式会社様



■ あとがき ■ 当宮社報は、今号から一月の「新春号外」と、四月・九月に発行予定の「通常号」との年三回の発行とします (号外題字は、宮司の揮毫です)。今後とも、より一層、皆様にご愛読いただける社報を心がけたく思います。

大阪天満宮

天満てんじん 新春号外

令和二年十二月二十五日印刷

令和三年元旦発行

発行人 寺井種治

発行所 大阪天満宮社務所

〒530 0041 大阪府北区天神橋二丁目十八

TEL 〇六六三三三〇〇二五

印刷所 木村印刷株式会社